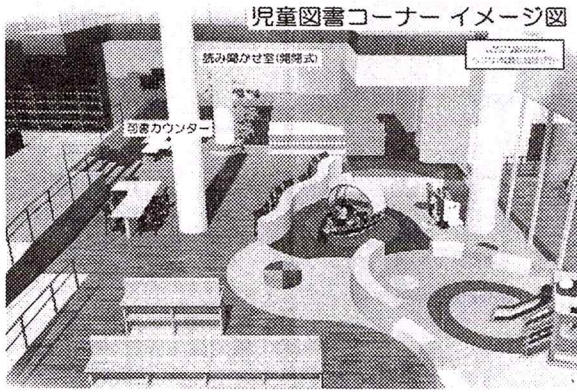


4月15日、東日本大震災調査特別委員会

多賀城市新図書館の概要を発表



15日午後の「東日本大震災調査特別委員会」で「移転後の市立図書館の概要及び再開発ビルA棟の設計内容について」当局より説明が行われました。党市議団は質疑で新図書館の問題点を指摘し「今からでもパブリックコメントを求めるべき」と主張しました。

市当局から提出されたのは新図書館1階から3階の平面図と断面図、及び市立図書館の階層別コンセプトイメージ、平面プランの概要の説明プリントです。

党市議団や他党議員からの指摘で設計素案から改善された部分もありますが、基本的には昨年7月の「東北随一の文化交流拠点整備

児童図書コーナーイメージ図

読み聞かせ室(階増式)

児童図書コーナー

児童図書コーナーイメージ図

児童図書コーナーイメージ図

「図書館に市民の意見は求めないのか」市当局「十分意見は聞いた」

市当局は主な変更点として、児童書コーナーと書店玄関の位置を離すために①再開発ビルA棟玄関を北側と東側に変更②児童図書コーナーの設置場所と面積の変更③商業施設と児童図書コーナーの区画を計ったと説明。党市議団は「児童書コーナーは2階に移動し、店舗部分と完全に分離する」よう求めていましたが、当局は「店舗より90センチ低くなっており手すり区画されている」としています。しかし店舗との間に壁はなく、空間的には一体の構造で店舗の音や賑わいがそのまま伝わる構造となっている。

また「読み聞かせスペース」については「子どもの想像力を豊かにするよう空間的にも内装も工夫を」と求めました。

1階商業スペースにはトイレがありません。これは書店のお客さんのトイレ使用の維持費も市が負担することになります。商業スペースにもトイレを設置するよう強く求めました。

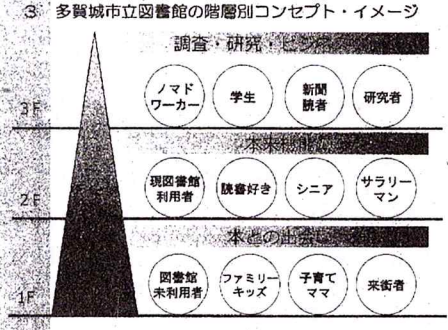
事務室については「事務室は3階にあるが、何かあった場合3階から1階に降りてこなければならぬ。せめてせめて2階にすべきだ」と求めました。

児童図書コーナーイメージ図

児童図書コーナーイメージ図

児童図書コーナーイメージ図

児童図書コーナーイメージ図



各階コンセプト	ジャンル	BGM
3F 集中して過ごせる学習・研究・仕事の場	歴史、専門書 参考書	なし
2F 居心地のよい書斎のような空間	文芸、人文、芸術、自然科学	一部
1F 家族、人々で賑わうリビングルーム	児童書 料理、旅行、健康、出産育児、手芸	あり

度売ってしまえば終わりの書店ではいいが、帰ってきた本を整理して配架しなければならぬ図書館にはなじまない。二重分類になり導入すべきではない」と指摘しました。

さらに雑誌の充実について「現在115タイトルある雑誌を30〜35タイトルに減らすと図書館協議会で説明したが事実か」と質しました。社会教育課長は「書店と図書館と双方の強みを生かしていくため、検討課題として説明した。決まっているわけではない」と答弁。「書店で雑誌を売って

児童図書コーナーイメージ図

児童図書コーナーイメージ図

児童図書コーナーイメージ図

児童図書コーナーイメージ図



題字は池田和京さんにご揮毫いただきました。

日本共産党

多賀城市議団・編集長柳原清

多賀城市留ヶ谷一丁目11番23号

代表(364) 3222

FAX(309) 3910

◇弁護士による
法律相談

◇申込
電話で予約して下さい。

◇電話
364-3222

◇相談日
4月25日(金)
4月30日(水)

◇時間
午後1:30~

◇場所
旧阿部福商店となり塩釜県民の会事務所

◇議員による
暮らしの相談

電話
藤原益栄議員
368-6623
070-6497-6623

佐藤恵子議員
367-0182
090-2027-9884

柳原きよし議員
368-1883
090-2605-4984

戸津川はるみ議員
090-7528-2075

東風城月

石川一と河上肇。ともに名は「はじめ」と読む。石川一は存じ啄木の本名。この二人、名の読みが同じというだけの間柄ではない。河上は京都帝大教授も務めた戦前の有名なマルクス経済学者。1917年に出版した『貧乏物語』の中で啄木の「はたらけどはたらけど猶わが生活業にならざり／＼と手を見る」を引用している。河上の啄木への共感ぶりがわかる。河上は1879年10月20日、啄木は1886年2月20日の生まれ。河上が京都帝大の講師になったのは1908年。啄木が26歳で亡くなった1912年に河上は33歳で論文集『経済学研究』を執筆している。河上は1928年に京大教授を辞職し、大山郁夫の労働農民党の結成に参加。以前からカンパをしていたが1932年にはついに日本共産党に入党。「たどりつき ふりかへりみれば やまかはを こえてはこえて きつものかな」と詠んだ。漢詩学者の海知義先生は「明治以降の漢詩人は夏目漱石と河上肇が双壁」と言う。『文芸春秋』本年二月号は「新選・百人一首」を特集、前出の河上の歌も選んでいる。文人河上の面目躍如といったところか。以上啄木命日の13日に二人の「はじめ」を考えた次第。